

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.38 2010.10.5



福まち通信

菊水福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX011-887-7006
URL <http://kikusui-net.jp>



子育てサロン「どんぐりころころ」で
歌うバームクーヘンのみなさん

福祉のまち推進事業15周年記念式典

福まち推進事業が始まって今年で15年になります。この事業発展を願って、9月13日にかでる27のホールで福まち関係者420人の参加のもと、記念式典と「地域福祉市民活動フォーラム」が開催されました。これに先立ち、「福まち活動写真及び広報紙コンクール」の結果発表と表彰式が行われました。

菊水地区からは、ふれあい交流会の活動写真と今年の「福まち通信5月号」を出品しましたが、そのうち活動写真が審査員特別賞を頂きました。

菊水地区は広報紙部門では今年に入選しませんが、白石地区が最優秀賞、北東白石地区が優秀賞、東札幌地区が佳作にそれぞれ入選し、白石区内の福まち事業の情報実績が高く評価されました。



菊水福まち推進センター枝元編集委員と佐藤事務局長

白石区内の福まち事業の情報実績が高く評価されました。

地域福祉市民活動フォーラム

基調講演として、高齢者福祉に詳しいルーテル学院大の和田敏明教授が「住民主体の地域福祉活動の今後の展開について」をテーマに講演されました。「いずれ日本は、一人暮らしの高齢者世帯が多数を占める社会になる」と指摘し、こうした社会構造に対応するため「地域住民が互いに支えあう『新たな公』の仕組みづくりが重要になる」と訴えられました。

実現のポイントとして、自治体は住民福祉を最終的に担保する主体と宣言することが大切と説明し、地域住民が独居高齢者らの情報を共有して、見守り

活動をしたり、交流を深める拠点づくりに取り組むべきだと説明されました。

休憩後の体験発表は、西区八軒中央地区福祉のまち推進センターの事務局長代理の野島紀子氏による「福まち活動によって地域がどう変わったか」と、清田区北野地区八望台町内会福祉推進委員会の福祉推進委員千葉等氏による「住んで見たいあこがれの町づくりを目指して」との内容で日頃の活動の内容や成果について話されました。



どんぐりころころの支援に

女声合唱バームクーヘン出演

子育てサロン「どんぐりころころ」に菊水地区で活動している女声合唱団「バームクーヘン」の皆様が出演されました。

9月14日午前10時から菊水地区会館2階で始まった子育てサロンに、女声合唱団10名の方が参加し、合唱を披露されました。

メドレーで「はなみずき、夜空のむこう・3月9日」を歌われたあと、童謡を8曲続けて演

奏し、手遊び唄を数曲歌われました。

この合唱団は30年前東橋小学校のPTAのお母さんたちによって結成され、今まで福祉施設や病院の慰問、それに地域の行事に参加されてきた実績を持っています。前月の29日には、中央区の教育文化会館のホールで30周年記念コンサートを行い、賛助出演した児童合唱団や小樽商大OB合唱団ともども好評でした。

参加していた45組の母子は、じっと美しい歌声に聞き入っていましたが、男のお子さんは合唱にあまり興味がなかったとみえ、遊びに夢中でした。



敬老の日特集

敬老の日の制定
敬老の日の趣旨は、長年にわたり社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝うことにあります。敬老の日は、今までは9月15日と定められていましたが、9月の第三月曜日に変更され、今年は9月の20日がその日になります。名称は、もともと「としよりの日」という名前で昭和29年に制定されましたが、もっといい呼び方はないかということで、昭和39年に「敬老の日」と改められました。そして昭和41年に「国民の祝日法」が改正され、国民の祝日になったのです。

敬老の日



敬老の日の由来

由来はいろいろあるようですが、有力な説のひとつに次のようなものがあります。「聖徳太子が大阪に四天王寺を建てたとき、非田院を設けたといわれています。非田院は今で言う老人ホームで、この非田院が誕生したのが9月15日であったため、この日が選ばれたという説があります。」

敬老の日の行事

このような故事に基づき、9月の中旬頃に地域のお年寄りを招待して敬老会を開くことが慣わしになりました。札幌市では、その年度内に100歳になる高齢者の

長寿を祝って記念品をお渡ししています。そのほか、敬老の日の前後には、市長や区長が高齢者の家庭を訪問して、直接長寿をお祝いし記念品を手渡しする行事を行っています。

100歳以上の高齢者

札幌市では、15日時点の100歳以上の高齢者が584人に達し、過去最多になったと発表しています。その内訳は男性91人、女性493人で、10年前の約4.7倍に増えています。

最高齢は女性で108歳、男性で106歳だったそうです。



菊水地区の在宅最高齢者紹介

全国では、100歳を超える人口は4万4千449人に達しているそうです。65歳以上の高齢者が人口に占める割合はなんと23%に達し、もう少しで4人に1人が高齢者という超高齢社会が訪れようとしています。

菊水地区の高齢化率は約17%ですが、若い人たちの流入が数字を押し下げているため、戸建て住宅やアパート居住者の状況は深刻で、おそらく相当高い数字で高齢化が進んでいます。

さて、菊水地区での在宅での最高齢者は、右の写真の「椎名コチヨさん」102歳です。国鉄職員だったご主人との間に6人のお子さんを設けられ、現在は4男の息子さんと元気に暮らしておられます。お子さん、孫、曾孫、玄孫42人のおばあちゃんです。

毎日の生活は、リビングの安楽椅子に座り1時間かけて新聞を読むのが日課だそうです。要介護4の認定で、週3回デイサービスと月1~2回(1回約7日)のショートステイを利用しています。

食事は好き嫌がなく、なんでも自分で食べられます。耳は遠いですが大きな声での会話は充分可能ですし、取材中の編集子にお茶を進めるなどの心遣いをして下さいました。



元気な椎名コチヨさん



老人クラブ演芸大会

9月23日(木)午前10時30分より菊水地区会館において、恒例の菊水地区老人クラブ連絡協議会主催による「老人クラブ演芸大会」が行われました。

舞踊とカラオケの2部門に、傘下9団体のうち、8団体からそれぞれ舞踊16組、カラオケ14組の出演があり、日頃の成果を発表しあいました。詰めかけたそれぞれの応援団からは熱い声援が飛び交いました。



あのひとこのひと



代表の目良公子さん

2ページでご紹介しました菊水地区女声合唱団「コーラス・バームクーヘン」は、今年で結成30周年を迎えました。それを記念して、札幌市文化会館小ホールで記念コンサートを行いました。

この合唱団は、昭和56年東橋小学校PTA ひまわりコーラスとして発足しました。東橋小学校の

行事に参加するほか、多くのイベントに参加してきました。その後、PTAを離れ地域のコーラスとして独立し、団名も「コーラス・バームクーヘン」と改名しました。市民合唱祭に参加することのほか、福祉施設や病院での慰問コンサートや、白石ふるさと祭りなどに参加するなど華々しい活躍を続けてこられました。

10年、20年の節目にはそれぞれ記念コンサートを開くなど活躍を続けてこられ、今回の30周年記念コンサートにつながってきました。

コンサートの模様は、第一ステージの女声合唱組曲「小さな神さま」で開幕し、江別児童合唱団や、小樽商大グリークラブOB会の賛助出演を得て、幅の広い歌声を披露しました。満員の客席からは感嘆の声が上がり、盛大な拍手が会場に響き渡りました。

指揮を続けてこられた濱名智恵先生のご指導の下、代表の目良公子さんの弛まぬ努力と団員の和によって成し遂げられたこの成果に、改めて拍手を送ります。



編集後記

暑いあついとお日様を恨めしく思っていたのは、何時のことだったのでしょうか。この頃では「寒くなりましたね」の挨拶が普通になってしまいました。一日だけの敬老の日もあつという間に終わり、共同募金の赤い羽根が目立つ季節が訪れました。「福まち活動」も15周年を迎えます。超高齢社会があつという間にやってきます。菊水地区での、そのときの準備は整っているのでしょうか。

福まち通信編集員 枝元